

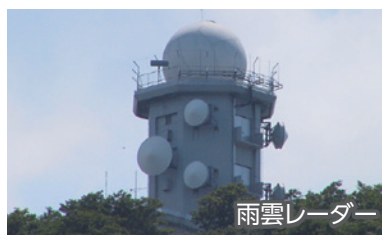
竜門ダムの概要

竜門ダムの防災操作(洪水調節)までの流れ

梅雨や台風など大雨が予想され、洪水が起こりそうなときに竜門ダムでは洪水警戒態勢に入ります。

- ①雨量レーダーで広範囲の情報、雨量計や水位計でダム周辺の情報を収集し、各種データを基に、今後、ダム周辺の雨の状況やダムに入ってくる水の量を予測します。
- ②放流を行う前には、関係機関への連絡、ゲートの点検等の放流準備を行います。
- ③同時にダム下流の巡視を行い川に人がいないかなどの安全確認を行います。
- ④その後、ダムに入ってくる水が一定の水量を超えると予想される場合にダムからの放流を開始します。
- ⑤さらにダムに入ってくる水量が増え、ダムに入ってくる水の一部をため、安全な水量だけを下流へ放流する「防災操作(洪水調節)」を行います。

1.気象・水文データ収集



雨量レーダー



雨量計



水位計

高水管理を行うには、雨の降り方の予測が最も大切です。予測を行うために雨量レーダーや雨量・水位計からデータが集められます。

降雨量・流入量の予測洪水
調節計画の決定

2.放流設備の点検



ゲートなどの設備を点検し、放流に備えます。

3.下流への巡視、警告



サイレンや情報掲示板で放流することを伝えます。併せて巡視を行い、釣りや川遊びをしている人がいないか確認します。

4.放流開始



ダムに入ってくる水が一定の水量を超えると予想されると、ダムから水を流し始めます。

さらにダムに
入ってくる
水が増えると

5.防災操作(洪水調節)



ダムに洪水の一部をため洪水調節を行うことで、川の増水を緩和し、下流地域の被害を減少させることができます。

竜門ダム放流時の警報について

1.ダムから放流を始めるときは、巡視を行います。

竜門ダムから放流する時は、川の中や川のそばで釣りや川遊びをしている人がいないか、警報車による巡視を行い安全を確認します。

釣りや川遊びなどで川を利用している際に、川から出るよう指示がありましたら、速やかに川から出て川に近づかないようにしてください。

2.ダムから放流を始めるときは、サイレンやスピーカーでお知らせします。(放流警報)

竜門ダムから放流する時は、河川の水位が上昇し、河川利用者が流されたりしないよう、河川のそばから避難して頂くため、警報局のサイレンやスピーカーで放流することをお知らせする放送があります。

約1分	約10秒	約1分	
サイレン	休止	サイレン	放送

計画を上回る異常雨量の場合(※)新しく追加になりました!

約1分	約10秒	約1分	約10秒	約1分	約10秒	約1分	
サイレン	休止	サイレン	休止	サイレン	休止	サイレン	放送

迫間川沿いでサイレンがなったら、ダムから水を流す合図ですので川の中や川岸から離れてください!

